日野市新たな学校づくり・社会教育施設づくり検討委員会（第6回） 議事録

1. 日時場所ほか

- (1) 日 時 令和6年7月12日（金）午後2時00分～午後4時00分
- (2) 場 所 日野市役所本庁舎5階 506会議室
- (3) 出席委員 上野淳委員、中澤正人委員、丹間康仁委員、小川真由美委員、川島清美委員
山口晶子委員、デヴェロー斎恵委員、佐野礼子委員、佐藤和子委員、
根津美満子委員、小杉博司委員、原藤未奈委員、宮田守委員、中島正英委員
- (4) 欠席委員 有野正樹委員、村田幹生委員
- (5) 事務局 教育部：堀川拓郎教育長、中田秀幸教育部長、田中洋平参事
教育部庶務課：釜堀亜矢子課長、櫻井芳樹課長補佐、森谷秀信主査

2. 次第

- (1) 開会
- (2) 議事
 - 1) みんなで考える、学校施設のあり方について
・ワークショップの実施（中間報告）
 - 2) 第4次日野市学校教育基本構想を具現化する空間
 - ①多様な学びを実現する空間事例 ～石川県加賀市の教育ビジョン（映像）～
 - ②学校施設整備のコンセプトの検討
 - 3) 学校整備の方向性
 - ①小学校整備の方向性（特別支援学級/特別支援教室）
 - ②中学校整備の方向性（普通教室廻り）
- (3) 閉会

3. 配布資料

- 資料1 日野市新たな学校づくり・社会教育施設づくり検討委員会（第6回）資料
- 資料2 第4次日野市学校教育基本構想
- 資料3 学校施設整備基本構想（素案）イメージ
- 資料4 検討委員会第5回 意見まとめ

4. 議事録

事務局 それでは定刻となりましたので、ただ今より令和6年度、第6回日野市新たな学校づくり・社会教育施設づくり検討委員会をはじめさせていただきます。
委員の皆様方におかれましては、大変お暑い中、またお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本日も、庶務課長の釜堀が事務局

としての進行をしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。それでは早速、会の進行につきまして、委員長にお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

委員長

本日は雨の中のご出席ありがとうございます。よろしくお願いいたします。だんだんと進んできて6回目となりました。今日以降まだ2回ありますが、そろそろいろんなことが見えてきた段階です。皆様のご協力ありがとうございます。本日も多角的に積極的にご意見いただければと思います。本日は議事次第にありますように、市としては議事の一番目の学校整備の方針を、今まで小学校についてはずっとオープンスペースまわり、教室まわり、ラーニングセンターを見ていただきましたが、本日は特に小学校では特別支援学級についてのスタディを見ていただきたいと思っています。それから小学校は大体これで一通り勉強したわけですけれども、いよいよ中学校の教室空間や空間構成全体のあり方はどうやったらいいかということも本日改めて議論を開始したいと思いますのでよろしくお願いいたします。それから議事の二番目では、市の教育ビジョンに対して我々がこれからの学校空間をどう日野市として組み立てていくかという議論にどう結びついていけるかを多角的に議論していただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日は議事が多いので若干窮屈かもしれませんが、ご協力お願いいたします。まず初めに事務局にお尋ねしますけど、委員の出席状況と傍聴者の有無についてご紹介ください。

事務局

事務局でございます。

本日の委員会は、有野委員、村田委員が諸般の事情により「欠席」となり、また川島委員は遅れての出席を予定してございます。川島委員の出席を含めますと、本日は計14名となっております。傍聴者につきましては、本日、申し出はございません。

また、ここで1点事務局より議事についてご相談となります。本日は議事1)から4)までございますが、委員長からご意見ございましたとおり、1)及び2)が議事を中心になろうかと考えてございます。特に議事1)につきましては、中学校についても小学校同様深くご議論いただきますが、全国的に新たな学びに適した空間の事例が少なく、委員各位にご意見をいただきたいと考えています。本会は第4次学校教育基本構想の具現化や、先進地事例の学びについても検討テーマとして取り上げる回となるため、ぜひ本日中学校を深く掘り下げておきたいということがその理由となります。また、本日中学校分野代表が校務により遅れての参加となるため、議事の順位を変更し、議事4をまずはじめご意見いただき、続いて議事2、議事1、議事3で進行をさせていただき、議事3については、主な説明を含め、本日の議事進行時間によりましては、次回の議事に展開させていただければと検討してございます。委員長より議事進行いただき、ぜひ委員でご検討いただけますと幸いです。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。今事務局から説明がありましたが、中学校分野代表の委員が遅れて参加のため、議事の順番を入れ替えさせていただきたい。それから本日は学校整備の方向性、中学校についてできれば多角的にご意見いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。そういう議事の進め方にさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

一同 (異議なし)

委員長 ありがとうございます。それではご異議なしのようですので、事務局提案の議事で早速議事進行してまいります。では、本日の議事に入ります。まずみんなで考える学校施設のあり方についてワークショップしていただきましたが、これについて事務局からご説明よろしく願いいたします。

事務局 事務局でございます。
それでは、配布資料に基づき説明・補足をさせていただきます。
資料1-36をご覧ください。はじめにワークショップの対象とするグループについてでございます。検討委員会の委員の皆様からのご意見はもとより、広く学校関係者からのニーズを聞き取り、意見を集約していくことを目的として対話企画、ワークショップを令和5年度より行っております。その「広く」という言葉の意味ですが、まずはスライドの中心に黄色で着色しております②小中学校における児童と教職員を当事者として、また①のとおり、これから就学・進学され、学校に期待と不安感を有する保護者の方、そして③卒業生だからこそその視点で改善やあるべき姿を意見できる高校生世代、さらに横出しとして学校の地域開放の観点からコミュニティ施設の利用者、この方々を当事者として「広く」ご意見を伺う対象として対話をしてまいりました。
ここでは、令和6年度の取り組みを2事例ご報告いたします。資料1-37をお開きください。表題下に記載がございますとおり、本年6月に中央公民館において、未就学児・学齢期の保護者であり、コミュニティ施設の利用者であります団体メンバーとワークショップを行いました。ここで詳細につき画面を通じてお伝えしたいところなのですが、私の説明ではなかなか行き届かないところがありますので、本日は、特に都立高校生とのワークショップの成果をこの会場で展示させていただき、さらに生徒の発表の様子を映像で取りまとめました。私が説明いたしますよりも映像を通じて生徒たちの学校に対する思いをのちほど聞いていただきたいと思います。
はじめに、ママ会のワークショップの様子でございます。こちらのスライドにて概略説明を割愛させていただきます。次に都立高校生とのワークショップです。計3回のうち、1回目は、今壁のあちらこちらに模造紙が貼ってあります

けれども、まずは自分たちがいた頃の学校の現状を分析して、それに対して評価を与え、続いて真ん中の机に置いてあります模型ですが、どうやって改善すればどのような学校ができるだろうかということで、実際に手を動かしていただきました。そして最後に、一番窓側にあります両サイドにポスターが1枚ずつありますけれども、ポスターセッションということで、Aチーム対Bチームで自分たちが作り上げた学校のPRを6分以内でプレゼンしていただきました。最終的には左のポスターの上にあります通り、プレゼンを当市の教育長と都立高校の学校長にジャッジしていただきました。コンペとしては向かって左側のBチームが「SNS社会に交流を」というタイトルで勝利を勝ち取ったという流れになっております。この中で生徒たちが中学校をどう作りあげたのか、プレゼンの内容を映像で紹介したいと思いますので、画面の方をご覧ください。まずはAチームの中学校に対する発表となります。

(都立高校Aチームのコンペを映像で放映)

続けてBチームの発表を5分程見ていただきます。

(都立高校Bチームのコンペを映像で放映)

音声の一部聞き取りづらいところがあったかもしれませんが、これは同じ条件のもと2チームがいろいろ試行錯誤した結果、全く異なる学校を作り上げたケースでした。生徒は学習空間とともに生活環境をやはりとても重視しているというのが全体的に言えることと、私の中で心に響いたのは、空間の距離が近づくると人の距離が近づくという心理的な人間関係のことも、強く訴えかけていました。あと、特別支援学級のブロックでいうと、目の前の模型は一部の校庭の前に1列に並びで配置されているのですが、そもそもこれまでの校舎はなぜ同級生であるのに自分たちの学級とともに並んでいないのだろうと自問自答し、ただ、先生方の指導の過程の中で一つにまとめた方がいいのかな、学校運営のあり方も視野に入れ検討した経過もございました。この後いろいろと個別に感想を伺う機会もあり、一言ずつ豊かな発想が出たんですけれども、また別の機会にそのメッセージについてはご案内したいと思います。本日は私からの状況説明ではなく、こちらの映像をもって事務局の説明と変えさせていただきます。

委員長

ありがとうございました。素晴らしい取り組みですね。生徒たちは大したものですね。ラーニングセンター、図書館。みんなが行きやすい場所にあるべきだ、あるいは職員室は質問や相談をしやすい雰囲気にしてください、あるいは特別支援学級は特別扱いしないでみんなと交流できるような位置にすべきだとか、我々も彼らから学ぶことがすごくあるなという気がしました。大変興味深い、

有意義な試みをありがとうございました。これについて事実関係で何か質問等ございますか。よろしいですか。

それではこの件についていろいろご意見をいただきたいと思います。まず、恐縮ですがけれども教育長、ご参加いただいたのですが何かコメントをいただけたらと思います。

教育長

教育長でございます。昨日なんですけれども行ってまいりました。昨日の夕方にこれをやってまず今まとめている事務局は一生懸命仕事をしたなと思っています。本当に昨日ですね、すごくいい雰囲気これで伝わったかどうかわからないですが、大変わくわくする時間でした。この2つの案の中に、生徒たちのいろんなアイデアや思いが詰め込まれたものになって、その中で特に私の中で残っているのはお互いにそれぞれが全然違う形なんですけれども、人と人との交わり、交流というものをどう円滑にして意味のある交流を作っていくかということが大変こだわりを持って作られていました。例えばですけど、特別支援学級の近くにあえて交流できるスペースを置くことによって、そこで自然に人が集まって、交流できるようにしようとか、先ほど委員長からもお話ありました職員室どうやったらもっと相談しやすい、子供と大人の交流というのをどういう風に生んでいくかとかですね、そういったアイデアがちりばめられている案になって、本当に高校生に頑張ってワークショップをやってもらいました。今回は、この形式に意味があるというものではなくて、中身という意味で、最近まで中学生だった生徒たちが、日野市出身の生徒もいれば日野市ではない他市出身の生徒もいますけれども、議論をして、こんな学校だったらいいよね、その中身にも示唆の多い、そんなワークショップだったかなと感じました。以上です。

委員長

どうも貴重なご発言ありがとうございました。もしかしたら将来的に、それから日野市の学校を具体的に考えるにあたって、日野市の中学校の生徒や小学校の生徒にもちょっと別の形になるかもしれないけどいろんな風に意見や感想を求めて、彼らの心象風景とかを建築の中に取り入れていくっていう工夫も必要なのかもしれませんね。ありがとうございました。さらにご意見をいただきたいと思います。

市の建築職の設計担当者として、子供たちの思い描く空間でどんな感想をお持ちだったでしょうか。

委員

今コミュニケーション、人との距離というのがテーマとして言葉として出て、やはりその部分を集約するということが1つあったかなと思います。それは原点というか我々もよく考えて見つかるところでもあるんですけれども、それを同じようにどんどん発言していただけたことと、我々が考えた、どっちがいいのかなと思うようなことも子供たちが自然にそれを受け入れているような所も

あったと聞けて、大変新鮮な気持ちで受け止めたところでございます。ありがとうございます。

委員長

確かに教室と廊下と特別教室だけじゃなくて、今ご指摘のように交流したりくつろいだり、いろんなことで交わったり、空間をこれからの学校の中でどう構築していくかっていうのが一つの大事な観点だというふうに思います。ありがとうございます。

次にいかがでしょうか。事務局にご協力いただき、放課後子ども教室でワークショップをやられた経験から、なにかご意見ございましたら。

委員

以前滝合小で行ったんですけれど、子供たちが、滝合小の特別支援学級の児童との交流をすごく大切にしているというのがありまして、かわせみ学級の児童はやはり通常学級に入れない子もいるんですけれども、すごく積極的に普通学級の方の子供たちと交わったり、授業を受けたりする子もいる。この分野はどうしても特別にということクラスが離れたり、建物もA棟B棟ということ離れたりしているんです。とはいえ、そのような交流を持っているので、今見たときにこう並んでいるのがすごく素敵だなと思いました。やはり子供たちの中にいろいろな思いが芽生え、中に入って行けない子がいるという現実もやっぱり知るべきだし、でも一緒に学べるっていう部分があるということも学べるのでこうやってもっともっと距離を縮めていくということ、滝合小でもそういう発言がありましたのでこれを見て嬉しく思いました。

委員長

ありがとうございます。貴重な発言、大変うれしい発言ありがとうございます。その他いかがでしょうか。副委員長、こういう子供たちの参画みたいなこと先生のご専門だと思うんですけど、何かコメントございましたら、感想でも結構です。

副委員長

映像の感想ですが、まずは生徒たちのわくわくする気持ちがどこからくるのかなというふうに考えながら観させていただきました。やっぱり、自分たちの未来を自分たちで決めるっていうのがすごく大事なことだと思ったところです。今この委員会というのは、大人たちが集まって、これからの子供たちのためになればと議論しているわけですが、やっぱり未来に向けたわくわくする感じは、私たちも子供たちからむしろ学んでいかななくてはならないし、私たちもいろんな事情や条件を先に見てその枠で未来を考えてしまいがちなんですけれども、やっぱり子供たちやこれからの世代と、もっと一緒に考えていく立場として議論していきたいというふうに改めて思いました。ですから、この委員会に高校生や中学生が委員として入ってきてくれているような感覚を常に持っていたいです。もちろん、実際に入ってきてくれたら一番いいんですけど、今回はその子供たちの声を事務局が伝えていただいたんだな、この場に

繋げていただいたんだなというふうには受け止めています。ありがとうございます。

委員長 ありがとうございます。確かにこれでわれら委員会はあと2回でおしまいなんですけど、その後今おっしゃったように、何か本当のステークホルダーの子供たち、児童生徒のいろんな希望や意見、あるいは言葉には彼らは表しにくいけど、どんな思いを持っているかみたいなことをこの学校のこれからの日野市のプロジェクトにどう生かしていくかとぜひ考えておきたいと思いますね。ありがとうございます。その他、ご意見ありますか。

副委員長 感想になっちゃうんですけど、本当すごくよく細かいところまで考えているなっていうので、Aの所で建物が少しずつ横にずれているのは日当たりが全部当たっているっていうのと、それから音楽室から隣の教室が見えると気が散るからずれているっていうのもすごいなと思ったんですけども、そんなとこまで考えているんだと思いました。トイレの位置なんかも実体験を踏まえて、生徒のおっしゃる通り、その子供たちの意見は大変貴重なものかなというふうなことを思いました。

委員長 ありがとうございます。1人か2人本当に感想で結構ですけども、何かもしくはご発言あったらいかがでしょうか、よろしいですか。はい、どうぞ。

委員 今高校生の話を聞いてとても健全でいい子だなと思いました。私達が今まで話し合ってきていることを子供たちもそう考えているし、最近学校に行ったらトイレにベンチがあるんですね。今おっしゃってないですけどね、トイレにベンチがあるんだって話したら、やっぱりトイレでもコミュニケーションを取りたがっている子もいるんじゃないかなって話をしていたんです。そういう中で子供たちが孤独を愛するのかなって気になっていたら、ちょうど子供たちの声の中でやっぱり交流の場とか交わりの場が欲しいという、それからもう一つびっくりしたのは、職員室を教室に近いところに置いてほしい、先生たちに質問しやすいようになって声があったので、やはり先生ともやっぱり交流とかコミュニケーションを求めているんだな、生徒間同士も求めているんだなと思ってすごく、若い子供たちが健全だなと思って安心しました。以上です。

委員長 ありがとうございます。確かに小学校は学級担任制なので児童と先生が常に近い距離でいることができる。中学校になると教科担任制になって、授業できて先生方は職員室にお戻りになるわけです。そういうときに中学校の生徒と心理的な先生との距離、あるいは相談しやすいかとか、あるいはちょっと聞いてもらいたいな、みたいなそういう子供たち、生徒たちのそういうあり方が、中学校の先生と生徒の距離を、少々今の学校では距離が遠い可能性はあります。そ

それをどうやってこれから日野市の中学校でどう構築していくかっていうのが1つ課題をもらったような気がしますので、大変貴重なご意見だったと思います。ありがとうございました。

それではこの件よろしいでしょうか。はい、それでは時間の関係もごさいますので、議事の2番目に入りたいと思います。日野市の教育ビジョンと、我々がこれを実際に学校にどういう学校空間として具現化していくかということをごさいます。まず事務局から資料説明をよろしくお願いたします。

事務局

事務局でございます。

続きまして、議事の2、第4次日野市学校教育基本構想を具現化する空間についてご説明いたします。資料1-22をご覧ください。第4次日野市学校教育基本構想と推進計画の相関関係でございます。令和6年3月に策定された第4次日野市学校教育基本構想は、5年後の日野市立学校における学びやその姿を想像して策定された教育ビジョンです。新たな学校づくりの推進計画における上位計画となり、スライド下段にありますとおり、この基本構想に掲げられた教育理念や子どもと大人の10+の姿、8+のプロジェクトの具現化に向けて、ハードウェアの観点から、学習環境を最適化し、学びを下支えすることを最大の目的として策定するものです。資料1-23、あわせて資料3として配布しました第4次学校教育基本構想をご覧ください。資料1-23では、基本構想で描かれている主たる姿、プロジェクトのうち、本検討委員会における2つの柱（これは学習空間と公共施設としての学校）と10の論点で、特に結びつきや相関関係が深い事項を整理させていただきました。以上2点を踏まえまして、資料1-24をご覧ください。お手元の資料におきましては、写真を非公開としておりますので、モニターでご確認お願いたします。前期計画となります第3次学校教育基本構想から続き、第4次構想の策定を踏まえ、市内各学校が取り組んでいるプロジェクトにつき、学習空間のとの相関関係をもとに、日野市らしい取り組み事例を、ここで紹介させていただきます。このスライドは、日野第四小学校のマイプランスクールです。同校では、月に1回程度体験を重視した自立解決型の取り組みを実施しており、対話と学びのアウトプットを重視した学習方法を取り入れています。成果については保護者、地域などへ発信し、自身の学びを振り返りながら深い学びを進めています。活動の様子をご覧くださいますと、児童はグループ単位で学習するなど、従来からの一律一斉の学びからは離れ、保護者を対象にプレゼンテーションする姿などは、右下イラストのような多目的な学びが実現する空間が、本来求められている状況と考えております。

資料1-25をご覧ください。こちらは平山小学校の一人一人を大切にした学び合い、いわゆる自由進度学習の取り組みです。子供たちは学習の手引きをもとに、自身の学習ペースで学びを進めていくものです。一人で課題を探究する児童や他の児童とともに進めていく児童など、自らが適した学びの方法で学習

を進めています。時には席を離れ、近くの児童と相談をしながら進めて行く姿もその特徴です。教師は児童一人一人の学びの様子を見たとながら、それぞれの子供に適した学びのサポートに徹しています。このような学習方法も教室という閉じられた空間の中だけではなく、学校全体が学びの場として、時には廊下や近接する多目的スペースなど、教員の目が行き届く配慮の中で、多様な学び姿を実現することが重要であると捉えております。

資料1-26、27をご覧ください。先進地の事例でございます。資料26につきましては、町田市の多様な学びを実現する事例でございます。同市では、学校施設の老朽化や子供たちにより良い教育環境の提供を契機として、学校施設の今後の整備方針を策定しています。小中学校ともにゆとりのある教室空間に特長があり、オープンスペースやラーニングセンターの設置も今後整備予定の学校において標準化しているものです。資料27につきましては、石川県加賀市の事例で教育ビジョンの中に学習空間が溶け込み、一体的に捉えた理念となっております。こちらにつきましては、後ほど加賀市の教育長がこのビジョンにつきまして情報発信しておりますので、その様子を8分弱の映像でご覧いただきたいと思っております。

資料1-28からにつきましては、2) ②学校施設整備のコンセプトの検討についての議事となります。本日お配りしました資料3は、新たな学校づくり・社会教育施設づくり推進計画のうち、学校施設整備基本構想(素案)における今後のイメージとなりますが、この計画策定にあたっては、基本方針、コンセプトの設定が不可欠であります。後ほど資料1-33でコンセプト設定の方向性として案の例示であり、またご提示ともなりますが、委員にご議論いただければと考えております。

コンセプト設定にあたっての基本的な考え方です。資料1-28から32をご覧ください。昨年8月の第1回検討委員会より委員各位には様々な検討テーマにおいて多様な意見を発議いただきました。本件と同様に、資料28、29記載のとおり、先ほどご説明いたしました第4次学校教育基本構想においても5年後の学校の姿に向けた具体的な取り組みとして、様々なジャンルの学校関係者より意見をいただいております。また各学校がプロジェクトを立ててそれぞれ目標を設定しているところでございます。

進みまして、資料30におきましてはこの検討委員会においても活発なご議論をいただき、続く資料31、32では市内小中学校の全面的なご理解ご協力のもと、総合的な学習の時間やワークショップ形式による対話企画の過程で、一番の当事者である児童生徒より、様々な声や学校施設としてあってほしい姿などご発言いただきました。特に日野第一小学校の児童が学習発表会で発言しておりました「みんなが通いたいと思える学校」は、今も私の心の中で響いており、最上位の柱であるかなと感じております。

最後に資料1-33をお開きください。以上、検討委員会の委員はもとより、これまで様々な分野のご意見をここで集約し、また検討委員会の10の論点を

ちのワークショップにも出てきました、子供たち自身が、プロジェクトを生み出すような、交わりや交流、そういったものがどういうふうに産んでいくのかっていうことは、大人と大人もそうだし、大人と子供もそうだし、子供と子供もそうだし、そういったその自分たちで作っていきっていうところ、そんなプロジェクトが生まれていきっていうことをどうやってハードが下支えしていいのかっていうところは大きなポイントなのかなというふうに思います。この点については武蔵野市の小学校にも、先日事務局の一員として視察してきましたけれども、そんな中では例えば教室の外の空間を子供たち自身がデザインしてダンボールとかを使って自分たちの居心地の良いスペースを自分たちで作っているようなですね、そんな事例もございました。そういったところも含めてどうやってそういった子供たちのプロジェクトを育てていくかっていうところも、視点なのかなというふうに思います。最後にこの後の議題にもなっていますが、中学校というところも一つポイントかなというふうに思っています。今私が申し上げたようなところっていうのは、小学校の事例ですが、例えば昨年度4次構想の策定にあたって、埼玉県戸田市の戸田東中学校というところに視察に行ってきたんですけれども、そこではマイプランスクールでやっているような探求を毎週金曜日の午前中ということでやっていて、そこで中学生たちがですね、全学年関係なく本当に渡り廊下だったりいろんなところで自分のテーマについて学ぶ姿っていうものがあって、小学校と中学校というのはかなり文化的にも違いますし、発達段階も違い、違いはたくさんあるんですけれども、そんな中でその小学校と共通する部分、4次構想自体は小と中を分けているものではないですので、小と中で共通する部分と、変えていく部分、違ってくる部分というのをどういうふうに位置づけていくか、そういったところについてはぜひ委員の皆様のご議論をいただければというふうに考えておるところでございます。いずれにいたしましてもこの後コンセプトの議論ということでございますので、4次構想も踏まえて、こういった形で施設のコンセプトを定めていくかの多角なご議論をお願いできればと思います。以上です。

委員長 どうもありがとうございました。では、事務局より説明などありますか。

事務局 続きまして、資料1-27でご案内しました、石川県加賀市の教育ビジョン、目指す方に少し近いものがございますのでご覧ください。

(石川県加賀市の教育ビジョンを映像で放映)

委員長 新しい学習指導要領が言っていることは、一人一人の児童・生徒の個別・最適な学びと同時に協働的な学びをどう実現するか。加賀市の例ですと、いわゆる自由進度学習、必ずしも教室で、全員が先生の方を向き一斉に学ぶ以外の

様々な学ぶスタイルが多様に導入されるべきだということを語っていると思います。まず、多様な学びを実現する空間の在り方について、感想で結構ですので委員の方々からコメントを頂きたいと思います。

委員

私には息子がおりまして、息子が小学校4年生の時に、総合学習で担任の先生が、子供たちに考えさせる授業をしてくれました。その時はある仮説を立てて、それぞれこういうテーマをやりたいといった子が、手を挙げた子が4人くらいいて、そのプレゼンをクラスで聞いて、自分たちはこのチームに入りたいと手を挙げて、チームを作ってやったんです。息子のチームでは、用水にエビがいるという仮説を立てて、図書館に行って調べたり、そういったアポも自分たちでやるんですけれども、担任の先生がフォローして下さりまして、そういったフィールドに出た時に、自分たちで考えようというふうに、子供たちは自分たちが考えようとしたときに、中学校の報告でもありましたが、上下ではなく横方向の方が居心地いいのかなと感じましたので、そういった学びの、学習面を支えるようなハード面の施設ができるとよいのかなと思います。現状では空き教室がなかったり、移動が難しいので、そういったスペースがあればいいと感じます。

委員長

ありがとうございます。オープンスペースと連続して使えるような学年のオープンスペースとか、それからさきほどから話題に出ています学校の真ん中にあるラーニングセンターですとか、様々なそういうフレキシブルに対応できる空間は大事なことだと思います。貴重なご指摘ありがとうございます。それから、皆さんお気づきになったと思いますが、もうこれから小学校中学校、児童生徒が1つ1つタブレットで先生は大型ディスプレイで、大型ディスプレイに映る映像や情報は、タブレットに直接入ってきますので、別の隣のオープンスペースにいても、授業・学習に参加できるってということもかなり学校の姿を変えてくるんだろうと思います。そういうこともちょっと注目しておきたいと思います。学校の中では、今どんなことが変わり始めているんでしょうか？

委員

今の映像見まして、子供たちっていうのはタブーがないので、自分たちでやっぱり創造していく力っていうのが、学ばば学ぶほどついていくんだっていうのは日々様子を見ていて思っています。同時に、本校でも5年生が移動教室行ってきた様子を4年生に伝えるというような内容の学習をしていたんですけれども、すごく目的意識がはっきりしていて、5年生もすごく生き生きして楽しそうに4年生に伝えていたし、4年生も普通の授業とはちょっと違った顔をして一生懸命勉強していたという様子が見られました。子供たちに結構な部分を任せた授業だったと思いますので、今見た教科の学習とは違うんですけれど、やっていく力は十分にあると思いました。ただ、やはりそんな様子を見ていて思うのは、本校の学校のハード的な面で、スペース的な問題はあるかなと、そ

ういう学習をやっている、普通教室の中でやらなければいけないので、なかなか広がりがいいというか、これがオープンスペースがあったりとか、様々なハード的なところが揃っていくと学習の広がりも出てくるのかなと思いつつながら見ていました。

委員長 どうもありがとうございました。まさしく我々も、この委員会目指すところは、ハードウェアがこれからののびのびとした活動を阻んではいけないというところで、どっちへ持っていかうかっていう議論だと思います。ありがとうございます。その他、何かご意見ありますか。

委員 そうですね、先生がいなくても子供が生き生きと活動できる、そして学習を進めることができる。素晴らしいですね。スペースとか場所がなくても、何とか工夫したらやっていけるんじゃないかなってことを感じたのと、それからこれはやっぱり、例えば、こういうふうにするよって言って、じゃあやんなさって言ったってできるわけじゃない。やっぱり先生方は、しっかり共通理解でどんな授業を作っていくのか、どんな子供にしたいのかっていう共通理解を持って、そして年度初めにはこういう授業規律といいますか、学習のルールを身につけさせよう、こういう行為はやっぱりしつととか、しっかりやっていかないと、多分できないと思います。今映った学校はもしかしたらね、そういうちょっと意欲的な先生集めたんじゃないか。ですからやっぱり先生がそういう時、教育を展開できるような力を見つけたり、それから自身がそういうのをやってみたいという思いを持たなきゃ難しいんじゃないかなと思いつつしました。特に我々世代、従来の教育にもどっぷり浸かっていると、本当にもうびっくりしますよね。こんなことができるんだ。でもやっているわけですよ。そのためにはやっぱり先生方が思いや願いを持って意欲的にこうやっていくのが必要かなと思いつつ、だから前も言ったような気がしますけど、今から先生方にも、こういう学校ができるんだよ、こういう授業ができるんだよ、やってみたいねっていう、なんかそういう働きかけをね、今からしていく必要があるんじゃないかなと思いつつしました。

委員長 ありがとうございました。学校の空間のあり方は、先生方の気持ちが高ぶり、やる気を起こさせるようなそういう仕組みの学校を作ることが、とても大事な事かなという気がいたします。その他どうでしょうか。何かご意見ありましたらお願いします。

委員 はい、おっしゃったように先生方がやる気が起きるような空間、それは本当に必要だなと思います。今は右を見ても左を見ても、ギチギチで全然空気がないんですね。それなので、やはり、今の学校のようにあれだけの空間があつて、ああいう机があつてみたい、本当にうらやましいな。東京都でいえば檜原村にある、檜原中学校そこはもうまさに今、檜原かなと思つていいような空間がありましたので、そこはやはりかなり自由な学習しているっていうのを伺ったので、空間が育てる部分もあるとは思いますが、とはいえ今の時点でも工夫して、例えば図書室に、今日は図書室で勉強しようとかいう形の授業とかも先生方、一生懸命工夫してやられているので、そういう中で、今後よりこういう施設ができれば、その学びがきっと見えるんだと思います。今

見ていてそう思いました。

委員長 ありがとうございます。揃えるから伸ばす、それから個別最適な、しかし協働的な学びの在り方、副委員長よりそれぞれ一言ずつコメントをよろしく願います。

副委員長 今おっしゃった個別・最適、協働的な学びというのが令和の日本型の教育ということで、これまでは文部科学省がいろんな教育改革を出されていく中で、その考え方とかそれはとても素晴らしいと思うんですよ。それで、今回の体系的な学びってということで、私も力不足ながら日野市の研究主任の人たちにも、話をもうして、先生方ってそういうことっていっぱい知識を得て、大切に大事でそのことが必要だということはよく理解は今までもしているんですけど、結果的にやっぱり変わってないっていうふうなところの中で、委員長がおっしゃった、だから逆に形を変えてしまうことによって、そういうことをやらざるを得ない環境というんですかね。今まで先生方の内容を変えるその考え方っていうものをいろいろやって、先生方をお願いというか、こういうふうにやっていきましょうってということで、変えていこうとすることが主流で、そうやってきたんだけど、逆に形を変えてしまっ、そういう形の学習をするような施設に学校がなっているというところの中で変わっていくっていうふうなことも、これからの今後の学校である学校施設の考えを含めて、大切なのかなというふうに思いました。

委員長 熱い発言ありがとうございます。どうぞお願いします。

副委員長 今、副委員長もおっしゃったように形を変えていくということもですし、私達が無意識のうちに、型とか枠とかに縛られて行動しているという部分もある。あるいは、型や枠があることで、学校では非常に効果的で効率的に学んでいける面もあるということです。私は社会教育と生涯学習を専門にしています。子供の学びと大人の学びって違うものだという議論がかつてはあったのですが、でも、子供から大人へとそこは人生が繋がっていて、学びというのは、本来的にわくわくするもので、楽しいものなんだということを、映像を通して、加賀市の中学生の様子を観させていただいて改めて思いました。それはなぜかというと、やっぱり学んでいくスタートが自分自身の問いになっていたり、自分たちで自分たちのやりたいことややらなければならないことを進めたりしている。そこにそのわくわく感がずっと出ているんだろうなと思いました。だから子供たちが自分たちでやっていこうとしているところを制約しすぎないように型とか枠とかってというのは、学校施設のハードとして考えていく必要がある。自由進度学習でも、場所をいくつかの候補から選べるという、その幅がすごく大事だと分かりました。絶対にこの自分の机のところ学ばなければいけないのではなくて、選べる幅があることが大事だと。そういうふうにして子供たちが中学校で学んでいければ、高校に行っても社会に出ても学び続ける姿勢が続いて、学ぶことが学校で終わりではなくって。学びというのは本来楽しいもので、自分が生きていく上でずっと必要なものなんだというふうに体得してもら。特に中学生の段階では、それぞれ進路も分かれはじめる直前で、自分の生き方や自分の行動のスタイルが決まってきて、定まってくる時期だからこそ、学びの幅を用意しておくことがとても大事だと思いました。

委員長 どうもありがとうございました。日野市の第4次教育ビジョンをどうやって空

間に具体化していくかというについて今意見交換をしているんですが、このテーマの中、この議題の中でもう一つ、学校施設整備のコンセプトの検討ということが挙げられております。これは、多分事務局はこれからの学校施設の方向性、学校施設の整備の方向性に何かコンセプトとかキャッチフレーズのまとまった1つの、いくつかの言葉を提示してほしいということだろうと多分思いますけど、それで自由に何かお感じになっていることで結構ですけれども、こういう学校施設整備の方向性を示す何かキャッチフレーズですとか、コンセプト、どんな姿を目指したらいいかっていうことについて、自由なご意見を受け承りたいと思いますのでよろしくお願ひします。
いかがでしょうか。

委員

先ほど委員のお話とかを聞いていても、先生たちが熱い気持ちを持って、何か目的意識を持って、子供たちの教育に当たるってということがすごい大事だっておっしゃっていて、そこがすごい難しいところでもあるし、これが必要な部分だっていうに、確かにわかりやすいキャッチフレーズではないんですけど、皆さんが具体的に取組んでいけるような、先ほど加賀の場合だったら、「Be The Player」っていう主体的に自分が何かをする人になろうっていうメッセージはすごいわかりやすいので、とても力強くていいコンセプトだなというふうに思ったんですけども、そういうようなものが先生や、もちろん先生だけじゃなくて、我々保護者ですとか地域に関わる人も同じ目標を共有できるようなメッセージというものが作れば、それがやっぱりすごく大事なのかなと思います。1つ具体的にこれがいいっていうのはちょっとすぐには出せないんですけど、思うのはやっぱり例えば「明るい」とか「みんなが行きたくなる」とかそれもすごく大事なことなんですけれど、イメージっぽい言葉よりも、やっぱり「自分たちが何をする」とか、「何になる」とか、能動的なワードの方が共感しやすいかなというふうには思いました。あといくつか何個かを提示してそれでコンセプトってする方法もあると思うので、そういうのもいいと思うんですけども、その場合、数を多くしすぎないっていうのはちょっと意識してほしいかなと。そういうふうには思いました。以上です。

委員長

ありがとうございます。確かに文科省は新しい時代の学校のあり方のレポートを出したときのキャッチフレーズは、誰もがみんな明日行きたくなる学校とかそういう観点だったと思います。同じような立場の保護者の立場からいかがでしょうか。保護者の立場でなくても構いません。

委員

私は無料塾をやっていると前も申し上げたんですけど、そこが小中高大社会人みんなが一緒の建物でやりたい学習をやっているんですが、あんまり成績は上がらないんですけど学校に行きたくないとか、勉強したくないっていう子がすごくきてくれるっていうことで保護者には喜んでいただいています。自由なので本当にみんな無料だしうちには別になんの利益もないので、来てくれても来てくれなくてもいいんですけど、1年以上続けている子もいて、本当によく来てくれます。ただ、一番困っているのはやっぱり教える側です。みんなやりたい学習をやっていて、今日はこれをやりたい、こちらは先週これの続きがあるからちょっとやればさらに伸びるから、これをあなたにやらせたいと思っても、いや今日はこれがやりたいって言うし、先生たち側はいろんな学習に取り組んでいる子がいるので、自分たちから働きかけていただかないと、先生、先生って呼んでくれる所ばかりに行きがちなんですけど、そういう先生側としては、いつも自分でこの子にはこういう学習がいいとか、それぞれやり方が違う

ので、やりにくっていいことは言われます。できたらドリルを作って、小学校何年生にはこれをやらせる、中学校にはこういうドリルをやらせるっていうことをやっていく方が先生としてはやりやすいとは言われます。でも子供が思わぬところでこれを調べたいとか言い出すので、常にこちら側も調べたりしながら教えるっていうので、自分たち考えたこともなかったようなところで、子供が質問してくるので、いわゆる教育指導要領をやってれば教えられる感じではないので、大変だなと思いますが、うちのコンセプトはみんな違ってみんないいということに落ち着きます。みんな違うんだけど、みんなを必ず肯定する場所である。やりたいっていうことがとんでもないことであっても危険じゃない限りは、なるべく応援する方向でやれるとこまでやってあげるといことを大事にしています。

委員長

ありがとうございます。1人1人が大事だってことですね。子供たち1人1人のための学校とかそういうことですかね。ありがとうございます。同じように学校運営に地域を代表してご意見などお願いします。

委員

はい、お願いします。①の加賀市の映像の感想から入りますが、その中でとても印象的だったのが、生徒さんが自由進度の学習で確認ができるという発言があった、そこはとても印象的でした。その中で次にあのコンセプトを考えたときにムービングかなっていうのは、受ける、動くっていうイメージがすごく湧いてきました。子供たちあるいはあの児童生徒の方は、自分が教員のように教えるっていうのをとても好んで頑張れる子が多いんじゃないかなっていうふうな印象を持っています。ここにもありましたが、はいみんな教えあってっていうふうな先生からの指示が入ったときに、それができるように予習をしてきたって子供が平山小学校でもいたりしました。その子は決して授業に一生懸命な子供ではなかったんですが、友達にわかったことを教えてあげてっていうふうな指示を出したときに、それがしたくて、ちょっと頑張っちゃったってお子さんがいました。そのときに必要だなと思ったのは決して今映像にあったような、先ほど副委員長もおっしゃっていたように、どこの学校も全てがああいった恵まれた環境にあるわけではない。今現在ある施設をどう生かしていくかという、学校の中にもしかしたらいくつかは少し広めの教室があると考えて、そこに移動しての授業を作り、その中で自由進度を中心に考えたときに、例えば自分の机をくるっと動かせる、あるいは椅子を持って、ここからあっちに移動する。そういった中で、子供が自分でまずやり上げたことを、他に困っている子はいないかなと動いて探せる。それをまた先生方もそれに対してまたフォローができるように一緒に動ける。そんな形で今までのようにちょっと狭い空間の中で、ギリギリで動くというよりは、自由に動きやすい空間があって、動いて授業を構築していくっていうようなことがあるとこれから先とてもいいのかな。その中では今ある施設の中でも児童数の問題もあるので、すぐにできるとは思わないんですが、その中でももしも例えばランチルームであったりとか、パソコン室のように、あまり使わないけれどもちょっと広めの教室があるというところに、図書室に行って勉強するように、そういったところに行って総合の学習なのか、生活科の学習なのかっていうところをやって、週に一度でも子供同士で教えられるような空間があったり、そういう授業があったりすると、子供たちは先ほどの伸ばすというところで伸びている子供たちがもっと増えてくるかな、あるいはすぐに伸びなかったとしても、学習に対して楽しいって、先ほど先生方もおっしゃっていましたが、学びは楽しいって思えるような、個性が光ったりしたらいいなっていうふうなことを考え、感じました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。確かに新しい学校を作るにはどうしようかということに傾きがちだけど、既存の学校の中でフレキシブルないろんな活動を促すためにはどうしていったらいいかということも大事な観点なので、一生懸命考える必要があるというのはありがとうございます。その他いかがでしょう。

委員 新しい意見はないですけど、改めて見ると子供たちに素晴らしい機会だなと感じる一方で、その子供たちも試されている。答えがない中でどの方向にするか多分定まってなくて、みんな意見を出し合いながらやっている途中であって、繰り返しながら、だからあなたたちの意見が欲しいんですよっていうのはすごいフィードバックを求めないといけないと思いましたし、進度別学習も娘もそれになってさらに算数が好きになってよかったんですけど、苦手な子はずっと苦手なままでいます。本当に1学期までに終わらなければいけないことが終わるのだろうかという心配もします。自由なのはいいけど、ある程度枠がある中での自由にしないと、貧富の差ではないが、学習も結構差が出るのではないかな。意欲のある子だけすごい伸びるみたいになっちゃったらちょっとまたそれはそれで大変なのかなと感じました。

委員長 1人1人取り残さないっていうことが一番大切な学校のコンセプトですから、ありがとうございます。ここで行政委員から、今後の公共施設の再編というようなことも含めて何かコメントがありましたら。

委員 感想になってしまいますが、いろいろなお話を聞かせていただいて本市や加賀市のビジョンもありましたように、子供たちのウェルビーイング、1人1人のウェルビーイングを実現する環境というのが非常に印象に残りました。おそらく当然これをやるには、相応のハード環境っていうのは絶対必要であって、それがなく現場の教員の先生、あと子供たちに精神論とか努力で強いるのはちょっとこれからの時代はちょっとありえないなと思ひまして、そういった意味でもやはりこのような教育環境を創造するという事は、しっかりと両輪になって考えていかないといけないなというのを改めて考え気づきました。

委員長 ありがとうございます。時間の関係もありますので3番目の議題に入らせていただきます。議題の3番目は元々の議題の1番目の学校整備の方向性です。これについて多角的なご意見をいただきたいと思ひます。内容は小学校整備の方向性と中学校整備の方向性ですが、まず小学校の整備構想について資料説明していただいて意見交換をした後、この中学校の整備っていうことについて2つに分けて議論を進めたいと思ひます。まずそれでは、小学校整備の方向性ということで、今回は特に特別支援学級、それから特別支援教室についてスタディしていただいておりますので、それについてご発表いただいて、意見交換をまずしたいと思ひます。

事務局 事務局でございます。

議事、1) ①、小学校整備の方向性についてご説明いたします。資料1をお開きください。こちらの議事につきましては、これまでの小学校における検討の経過、その内容につき振り返るとともに、これまで、検討の詳細が積み残しとなっております、特別支援学級や特別支援教室において、学校関係者よりイン

タビュ形式にて在り方を意見交換いたしましたので、学習空間の1つの考え方としてご説明いたします。

スライド右上、資料1-1をお開きください。令和5年8月より、本検討委員会により意見交換など開始いたしましたが、これまでの小学校諸室における検討経過をまとめたものでございます。本日の議事により、小学校における主な諸室の検討がひととおり終えることとなります。本日の第6回では、赤字となっております「特別支援学級」「特別支援教室」が主な検討テーマとなっております。

続きまして、資料1-2から1-6をご覧ください。はじめに普通教室廻りでございます。学習空間の構成として新JISの机椅子からはじまる普通教室のスケール(8.1m×8.4m)や、廊下幅6.0m、これは移動経路である廊下という空間とともに、普通教室と廊下との壁は、可動式として、あらたにオープンスペースを創出し、学習空間機能を備えたスペースの確保となっております。資料1-5をご覧ください。ここでは、日野市学校の現状課題1つとなっている収納スペースにつき実在する小学校の運用を反映した収納の考え方について、資料1-6では、オープンスペースの機能の在り方について、ご議論いただきました。

続きまして、資料1-7、1-8をご覧ください。特別支援学級、特別支援教室です。資料1-7、特別支援教室については、児童生徒一人一人の特性に応じた多様な指導が行き届く配置や機能を原則として、個別と小集団により指導ができる空間とします。こちらのスライドでは普通教室1コマ分を必要に応じて、可動式間仕切りで空間をわけることができることを前提に、左側では、小集団の席の配置について例示したものであり、また右側では、個別の指導を必要とする際の空間のレイアウトをイメージしたものとなっております。この空間では可動式間仕切りを開閉することで、小さなスペースながらも粗動など体を動かすことができる空間ともなり、また中央に例示しております可動式のキャビネットなどを用いることで、他者の視線を適度に遮り、個にとって落ち着いた空間を確保することも可能です。

資料1-8をご覧ください。特別支援学級です。イメージ図の左側、知的固定学級です。この教室においては、原則普通教室0.5コマを1学級とし、特別支援教室同様、教室中央に可動式間仕切りを設置することで人数の多寡に応じてフレキシブルな教室運用を可能とするレイアウトとなっております。また、特別支援学校の事例なども参考として、日常生活に不可欠な水回りも教室内に設置するなど案としてお示しております。その右側、自閉症・情緒固定学級です。この教室の主な特徴としましては、知的固定学級を基本としつつ、対人関係に配慮し、より落ち着いた学習空間とすることを考慮の上、例えばカーテンや可動式キャビネットにより、個の空間をフレキシブルに確保することや、廊下側と直接接することなくバッファゾーンを設けるなど、個の特性に合わせてこちらもフレキシブルに対応できる一例をお示しました。

資料1-9をご覧ください。カームダウンスペースです。この空間はどの学級においても不可欠であると捉えており、各フロアに設置が望まれるご意見もいただいております。ただし、一人ひとり、個性によりカームダウンできる空間は異なることから、正解としてこの様なカタチと確定することはできません。特にオープンスペースの設置となりますと、この空間においては、様々な仕掛けや工夫が求められるものと考えております。このスライドにあります写真は、他市の視察先の事例となりますが、①②④⑥のようにあらかじめ設置された空間や②⑤のように可変式の空間など、ハードウェアで整備するにあたっては、いくつかの組み合わせなどの工夫も必要です。設置の方向性としては、①教職員の目が行き届きやすいこと、②オープンスペースや廊下を中心とした位置に配置すること、③可動式の収納家具類もその1つのアイテムとして有効であることなど、総合的に考慮の上、フレキシブルな設置であることと考えてまいります。

少し先に進みまして、資料1-13から15をご覧ください。ここからは主に管理諸室でございます。いずれもスライドも前回検討委員会でご議論させていただきましたイメージ図です。こちらの諸室につきましては、7月末に教職員とワークショップなどの手法を通じまして10月の検討委員会での在り方をご報告させていただきます。

ここで一度、事務局からの説明は以上とさせていただきます。

委員長

それでは小学校資料1-15までご発表いただきました。実は小学校については今まで教室があり、オープンスペース回り、それからラーニングセンターなど、それから先生方のスペースについても既にいろいろ見ていただきまして、今日改めてそれを含めて特に特別支援学級それから特別支援教室について、やや詳しい資料をスタディした結果を示していただいております。まず小学校についてここまで議論をして、ご意見をいただいた後、中学校に入りたいと思います。資料1-15までについて何かお気づきの点がありましたらご指摘をお願いしたいと思いますが何かお気づきの点がありましたらお願いできますでしょうか。

委員

特別支援学級の方にもあるんですけども、1人1人状況が違って、それぞれ個別最適な学びを日々しているのので、それに対応できるようなハード的なものが必要になるのかなと思いました。

委員長

その他、お気づきの点ありましたらご発言いただければと思います。どうでしょうか。学校の支援員としてのご経験があると思いますが、改めて特別支援学級について、何かお気づきの点がありましたらご発言いただきましたら幸いです。

委員 クールダウン室までの距離が近いということが私達にはやっぱりやりやすく、気持ちが高ぶってしまった子をクールダウン室に連れて行くまでが1番大変なので、補助員が充足しているところはいいんですけども、担任の先生が連れてくるとなると、そこまで連れて行くのにちょっと他の児童を放置してしまうことになってしまうので、そういう可能性がある子は、事前に1人でこられる？みたいに指示している場面を何度か見たんですけども、そういう状態の時に1人でこの子が3階から1階の部屋に無事に来られるかという心配もあるので、私としては小さくていいので、適所にたくさんあるといいなと思います。

委員長 ありがとうございます。それについては、例えば資料1-6のところに学年ごとのオープンスペースの例えば、片隅にといいますか、あるコーナーに落ち着きを取り戻すことができるような図書コーナーのようなものを学年ごとに作って、そういう場合によっては使っていただけるとか、つまり学校の中に1ヶ所あるっていうのではなくて、学校の中にできるだけ、普通教室に近い位置に学年ごとにそういう小さな落ち着きを取り戻せるスペースを作るってのが、ここには表現してあるのですが、そういうことも考えていきたいと思います。ご指摘ありがとうございます。その他小学校の全体の空間構成について、何かご質問ございますでしょうか。

委員 確認させていただいてもよろしいでしょうか。特別支援教室のところで資料の1-7に具体的な寸法も含めて書いていただいています。質問が2つあって、1つは数についてです。特別支援教室をいくつ整備される予定かについては、まだ議論されていないでしょうか。もう1つの質問は、廊下があって、この図では2,400mmなっています。一方で、普通教室の場合には、オープンスペースも入れると6,000mmになっているので、違いがあります。校舎を今後、例えば40年、50年あるいは60年使っていくと考えたときに、用途の変更も将来的に想定したときに、その辺りの可変性について、これでもう決定なのかどうかを知りたいと思います。可能な範囲でお願いします。

委員長 ありがとうございます。特別支援教室の数、各学校における数についてはどうですか。

事務局 特別支援教室の現状は、各学校に全校配置というのが原則です。今、新たな学校づくりの観点で各学校にインタビューをしているところですが、極端に数が足りないということは伺っておりません。ただし、実際に学習生活に支援が必要なお子様が増えているという実情もありますので、学校の規模により今後教室数が不足するということが十分あります。この廊下を含めて今後空間のあり方ですけど、普通教室の観点からすると移動経路だけではなくて、そこをオー

プンスペースとして、学びの場として捉えていくということ。一方で特別支援教室は落ち着いた一定の空間もまた必要ということで、特に特別支援教室に接するこの廊下部分については、多目的に使えるスペースという捉え方はしておりません。長い将来を見据え、教室の転用までをどのように考えるかということまでに関しては、検討段階という実情でございます。

委員長

ありがとうございます。まずステップ教室の数については全体として学校規模、学校の全体として18クラスの学校なのか22クラスの学校かによって違ってくると思いますが、事務局ご指摘のようにこういうニーズはどんどん増えるという方向性なので、あと各学校における教室の数のあり方は、もう少し議論を少し詰めておきたいと思います。それから後半のようなご指摘はですね私もかなり同感でして、教室が直接廊下に面しているんじゃなくて、教室と廊下の間に何か特別支援教室のバッファのようなオープンスペースのようなゾーンがあって、廊下、バッファのスペース、特別支援教室っていうふうになっていた方が、特別支援教室の落ち着きが保てるっていう観点もありますので、今これしたと言っているのは特別支援教室自体も大きさがどうなるかっていうスタディですので、廊下とかその他のスペースとの関係とか、多目的なスペースとの関係を整理してもう少し検討加え最終的に素案を策定したいと思います。ご指摘ありがとうございます。全くご指摘の通りだと思います。それでは時間の関係で資料1-15, 16以降、中学校については少し時間を取って議論をしたいと思いますので、説明を再開していただけますでしょうか。

事務局

はい、それでは資料1-16からご説明をまいります。
ここからは中学校の整備の方向性として、普通教室廻りのご説明となります。初めに日野市の中学校整備を検討するにあたっては、お示しの4項目につき、整備の観点が必要と捉えております。特に1) 2) については、廊下を中心として自習スペース等の学習空間機能とともに、交流スペースなど生活環境としての機能も必要と考えております。これは市内中学校や先ほどの映像にもございました都立高校の生徒からも同じ趣旨の声があがっております。
以上のことを踏まえまして、資料1-17をご覧ください。はじめに、中学校における普通教室廻りでございます。今後、国の動静など注視が必要ですが、このモデルプランでは、現在1学級40人の定数を、小学校同様1学級35人の定数であることを前提として検討してございます。基本的な考え方につきましては、小学校同様です。新JIS規格の机椅子スケール計算から始まりまして、机の配列にゆとりを持たせ、教室を8.4m×8.4mを基本のスケールとして、さらに廊下スペースを単なる移動空間とせず、滞留や交流、自習空間などと捉え廊下幅を3mと設定します。
資料1-18をご覧ください。廊下スペースにおける具体的な空間イメージの一例です。1点補足いたしますと、廊下全体にこれら空間すべてが連続して配

置されているわけではなく、水道などの水回りやトイレ、階段、配膳室などが同時に並び、時に、このような空間も配置されているというイメージとなります。

最後に、資料1-20、21をご覧ください。小中学校のダイアグラムです。ダイアグラムとは、諸室の名称やその機能、関係性などを簡単に図式化したものです。設計とは異なりますので、平面図に記載されているような実際の寸法（スケール）や配置フロア、正確な位置関係を示すものではありませんが、中学校においては、本日のテーマとこれから検討予定の諸室について、また小学校についてはこれまでの検討経過を踏まえた諸空間のそれぞれ機能イメージとしてご覧いただければと思います。これを踏まえまして、中学校に少し深くご意見を頂ければなというところが今日の事務局の基本です。説明は以上です。

委員長

ありがとうございました。小学校に続いて、いよいよちょっとこれからしっかり中学校の空間のあり方についても議論していくという、今日は1回目でございます。初回のスタディとしてはこれから教室の机が新JISに変わって、今まで40センチ60センチだったのが、45センチ65センチになるってということ含めて、クラス定員は減ってくるだろうというのは含めて教室のサイズをスタディしてきていただいたところが資料1-17、18、19で、何かお気づきの点とかご指摘がありましたらお願いできますでしょうか。

委員

今思いつく寸法の話で言いますと、机が大きくなる、それはもう教材が多くなるからということなんです、この収納棚なんていうのは、併せて考えなければならぬ1つかなと思っています。いろんな教材があればそれを管理する個人個人、生徒が管理するための収納のスペースも当然大きくなければいけない。そんなことも考える必要があるかなと思います。小学校の方のオープン教室みたいなのとちょっと違って、これ教室と廊下の中の壁がある、そこら辺のスペースも、場合によっては収納の棚とか何かに使うことはできないかなと感じます。とにかく窓際の方は転落防止とかいろんなことを考えるとちょっとどうかなと思うんですが、廊下側だったらそういうこともできるかなと。現在本校なんかでも、これは特殊な事情なんですけど、耐震工事をやった関係で教室のサイズがちょっと学年ごとによって違って、その中でどういうふうなそれをクリアするかってことで議論しています。机も大きくなる教材も多くなる、もう全部1つ1つが1.05倍か何かで大きくなっていくというのは、それに応じたもので考えていく必要もあると思いました。

委員長

ありがとうございます。資料1-17で、これまでの日野市の中学校の現状だと教室の奥行きが7.4mで廊下の幅が2.5m程度ですけども、これからのそういう今ご指摘の教材の多さとか大型化とか、生徒の収納の増えることを見越して、奥行き7.4mのところ8.1mにしたらどうか、場合によっては廊下をもっと広くし

て、そこがある種の収納のスペースにもいろいろ展開できるような、資料1-18に示してあるようないろんなコーナーを作るようなことも盛り込んだらどうかっていうのが、現時点での事務局からの提案だと思います。今、承ったご意見まだ十分検討してもらいたいと思います。よろしくお願いします。その他ご意見いかがでしょうか。

ここで僭越ながら委員長としてご意見申し上げたいと思います。ここまでの中学校の教室の寸法の検討は非常に理にかなった、ちゃんとした検討がなされていると思うんですが、皆さんにご意見を伺いたいのは、資料1-20、普通教室ブロックは中学校の場合、こういうふうに普通教室がクラスの数だけあるっていうふうに表現されているわけですが、1枚めくっていただきまして、小学校では教室がクラスの数だけあるだけではなくて、様々なフレキシブルな学習展開に対応できるオープンスペースがあったり、少人数教室があったりして、学年グループを形成していきましようっていう提案をしていますが、中学校でそういうことは考えなくていいのかどうか。これについてはちょっといろいろ自由にご意見をいただきたいと思います。先ほどから個別・最適な学びのケースですとか、加賀市のいろんな試みですとか、あるいはもう日野市でも小学校ではいろいろやっておられる、いろんなクラスが連携した活動とか、あるいは個別に支援の学習があるということがありますが、中学校でこれからそういうことを考えなくていいのか、あるいは中学校における個別最適な学びってどんなことになっているのだろう。例えばクラス単位の授業だけではなくて、2クラスを3チームに分割して少人数授業の現状はどうなのか。クラスの数の教室があるので本当に大丈夫でしょうか、あるいは学年の教室が3つあるんだったら、場合によってはそういう数学、英語の人数分割ですとか習熟度別学習の2クラスを3チームに分ける授業をこれから考えていくとすると、そういう空間をもう学年まわりに用意しなくていいのでしょうかとか、あるいは先ほど加賀市の例でも出てきましたけれども、例えばクラスから離れて、個別あるいはグループのあるいは自由進度の学びをして、それからまた教室に戻ってくるような、そういうフレキシブルな空間が中学校の学年の周りにいなくていいのだろうかというふうなことも含めて、もう少しここは考えてほしいなっていうふうに事務局には伝えております。これからの中学校はどうあるべきかなど、副委員長よりコメントあればお願いします。

副委員長

皆さんもおっしゃる通り中学校こそいわゆる体系的な学習っていうふうなことが進んでくるとすると、そういう学びの場っていうものがよりフレキシブルであったりとか、あるいはその多様なものに対応できるような場が必要になってくるということを考えると、小学校と同様にというか小学校以上に必要になってくるっていうことはあると思います。

委員長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

副委員長

探究学習とプロジェクト学習は今後さらに間違いなく進んでくると思います。今、高校は普通科でも特色のある取組みに力を入れていますし、大学生も講義中にパソコンを開いて、要するに知識を与えるだけの授業をしても、みんなそんなのパソコンで調べたらすぐ出てくることも多いです、授業で学んだことをレポートにまとめるのも、生成AIを活用しながら、綺麗な文章をまとめることができちゃう。やっぱり、1人1人が問いを持ってそれに向き合っていく学習が、今後一層、中学校でも小学校でも、社会で生きていく上で必要なスキルとして確実に求められてくると思います。それと、探究学習とは別に、もう一つの習熟度別学習については分けて考えなくてはいけない。探究については、図のピンク色の滞留空間や交流空間の場所をなるべく広く取って多様に、そういう場所を用意していけばいいと思うんですけど、やっぱりそうは言っても、授業として例えば数学や英語などで集団を小さく分けていくというのは、教室でなければとやりにくい面もある。そこをどう考えるか、特に法令上の標準規模で考えれば各学年4学級から6学級までというふうに中学校の場合はなってきますので、自分の机がある学級の教室以外に、どれぐらいの空間が必要になってくるのかをしっかりとシミュレーションしないといけないと思います。

委員長

ありがとうございます。まさしくそうだと思うんですが、個別自由進度の学習あるいは個別学習の状況とか、それからそれとはちょっと離れて、例えば2クラスを3クラスに展開していくか、少人数分割授業っていうのは、今中学校、日野市ではどんな状況でございますか。

委員

もう全校でやっているはずですよ。2学級3展開、学校によっては習熟度ではなくて単純に人数を分けて分割していると思いますけども、数学と英語に関しては全校で実施していますので、そのスペースをどう維持しながらやるか、今現在は普通教室を2学級3展開だった場合には、プラス1教室あれば、ABCと分けることができるんですが、これがまた自分のクラスの机・椅子っていうのが自分のスペースになっていて、他のところに座るってことがなかなかできなくてポツリポツリ開いたりなんかしているようなそういう学習になってしまうっていう場合もあるので、少人数教室も余裕あって、大きさはちょっと別なんですがあるとしても展開はしやすいと思いますね。

委員長

ありがとうございます。中学校のこれからもそういういろんなフレキシブルな教室編成の在り方についてどう思いますか。

委員

小学校はいろんな多様な学習形態を使ったり学習活動していますけど、中学校はやはり一斉型授業が多いですよ。そういう中で単純に考えるのは、教育内の中で、やはりグループで子供たちが自由に動いて別なグループを作ってみる

とか、そんなことはできているんじゃないかなと思うんですけどね。ただ中学生が自由に動くと、すごく教室が狭く感じるんですね。肩がぶつかったり、廊下もそうですよね、日野一中なんかは廊下が広いからいいんですが、そうじゃない学校に行くと本当にすれ違うだけでぶつかったり、避けて歩かなきゃいけないような感じなので、中学校の学習スペースをもうちょっと広くするのが、ちょっと先じゃないのかなっていう気もするんですけどね。

委員長

後者の方は副委員長がご指摘したように、1-20で示してあるような滞留とか交流とか自習空間をできるだけ学年まわりで充実させて広くゆったり取ってあげるっていうのが1つですよ。それもちょっとこれからもう一度考えてみたいと思いますが、ここでイレギュラーですが、ちょっと教育長にご発言いただければと思うのですが。中学校において、日野市の第4次教育ビジョンで小学校はかなりいろんな意味でフレキシブルな動きが検討できていると思うんですが、中学校はやはりもう少し考えるべきじゃないかと私はちょっと個人的には思うんですが、教育長のお考えとか今の感想をもしお伺いできればと思いますがいかがでしょうか。

教育長

中学校は非常に難しい論点だなというふうに思っております。今お話しただいた通り一定のフレキシビリティ、探求であったりとか、自由な学びというのは、いろんな形で各学校でも総合的な学習の時間を中心に進めていっていただいているところですし、そこに対する一定のフレキシビリティというのは必要なのかなというふうには思っています。他方で、かなり文化的に小学校と中学校と違うところもありますので、そこをどういうふうに考えていくかということもまた1つ視点ではあるのかなと思います。他方で小中一貫という考え方で、小中の連携のあり方を模索していく動き、また中学校では当たり前だった教科担任の仕組みなんかを小学校高学年に入れていく、小学校中学年にも入れていくとかですね、小学校の中でも、副担任の仕組みを中学校に倣って入れていこうとかですね、そういった動きも今出てきているところなので、そこは断絶というよりは、シームレスなグラデーションの世界なのかなというふうには思っております。現状では、以上です。

委員長

よくまとめていただいてありがとうございます。確かにですね小学校中学校はある種のカルチャーの違いがありまして、小学校は学級担任制ですので学年の先生方の連携ができれば、同じ時間に国語だったり社会だったりすることができるわけですが、中学校はご存知のように教科担任制ですので、1年1組は数学やっても1年2組は理科やっているってことがありうるので、単に教室にオープンスペースをくっつけているだけでは中学校の場合はあんまり使える見込みがないっていうのがあります。しかし、逆に今日は非常に深く議論していただいたように少人数分割授業が日常的になっていますし、それとは

別に個別最適な学び、あるいは自由進度学習のようなことが一斉学習の中で取り入れられると、教室以外に子供たちが場を選択できるということもスペースとして考えていく必要があるんで、やはりこのことについてはもう少しこの1-20の中学校のダイアグラムに時間をかけて、あんまり時間かけてすることはできませんので、次回あたりまでまたある種の検討結果を再びここで議論していただくってことでまとめさせていただきたいと思うんです。いかがでしょうか。事務局どうですか。

事務局 本日のご意見を踏まえ、ワーキンググループでスタディさせていただきます。

委員長 ワーキンググループでぜひ検討しましょう。今日は1つの進歩としてね、これから中学校の教室のJISが変わって、机のサイズが一回り大きくなったときに、今まで奥行きが7.5だったのが、8.1mから場合によっては8.2mぐらいで少し教室のサイズが大きくなる必要があるっていうところまでは皆さんにご理解いただいたってことなんですけど、この先今ちょっと議論していただいたような中学校で、これからそういった個別最適な学びにいろんな意味でフレキシブルな空間をどう考えていくかっていうことは、もう一度ちょっと再度議論いただいて、それで次回またこの委員会のテーマにさせていただくってことで、事務局よろしいですか。ありがとうございます。

その他中学校について、このことも含めて何かご自由にご意見を承りたいと思います。どうぞ。

委員 小学校の方も被ってしまう意見になるんですが、資料1-9にある⑤の写真なんですが、多分中学校も同じような状況がありますが、今現在壁に直接フックが取り付けあって、そこにいろんな体操着であったりいろんなものをかけると思うんですが、この状況ですとどうしても落ちてしまって、非常に見苦しかったり、あるいは汚れてしまってなくなってしまうという状況があるので、例えば新しい学校で可能であれば、コの字型に出っ張らせていただいて、遊びの部分が出てくると多少ぶつかっても落ちづらくなるのではないかなっていうふうに素人考えであるので、そういったなんか落ちづらさ、このように掛けてしまうと本当にもっこりこっぴりしてしまって、本当に掛けづらかったりなくなる可能性が高くなるので、そこを考えていただきたいのと、あと小中一緒に出てこなかったのが、水回りについてもう少し考えたいなというふうに考えました。コロナ以降手洗いをする機会もすごく増えていて、その分、シンクであったりとか排水溝の汚れが非常に顕著で、でもなかなかそこは掃除ができていない。下手をすると1学期終わる頃、あの掃除に入るともうヘド口のようなびっしりこびりついて非常に不快な臭いを発してたりとかってこともありますので、そういった部分での掃除のしやすい素材というかっていうのもあったので考えられたらいいなというふうに思ったのと、あと水回りに付随しまし

て、特別支援学級の場合って生活科の授業で上履きを洗ったり洗濯をしたりという授業があったと思います。そういったところで今現在の浅いシンクであると、もう廊下がもうびしょびしょになってしまって転ぶ生徒が出てくると現状もありますので、例えば学校が避難所になったときのことも考えると少し深めのシンクにさせていただいて、洗濯というか、洗い物もできる、それは避難所になったときにも流用できるというような考え方で、流しまわりについてもちょっと考えていただけるとよろしいのかなということを感じました。以上です。

委員長 ご指摘ありがとうございます。その他ご発言ございますか。

委員 理解不足していたら申し訳ないんですが、このワークショップは小学校とか中学校は関係なく、どんな学校がいいかということでしたのですか。

事務局 事務局です。基本的には小学生は小学校、中学生は中学校を基本に考えていただいておりますが、今回の都立高校生につきましては、高校生ですので基本は小中学校を卒業され、2つの校舎パターンを経験しているということ、またこれまでは日野市の既存の学校を前提にご意見をいただきましたが、高校ともなりますと色々な街から高校に来ていますので、いろいろ街の学校施設を意見としてぜひ挙げていただきたいと考え、高校生になったからこそその気づきとして自ら卒業した中学校を対象として検討させていただきました。今回、中学校の検討を進めるにあたって、事務局も生徒が日常にどんな困り感があるのか現状把握をさせていただきたく、高校生には中学校に焦点を当てさせていただいたという経過です。

委員 ありがとうございます。今までの議論の中で小学校をフォーカスして、中学校の話も出てきて、そこに大きな乖離はなかったのに、中学校の資料の中で今までの議論はどこに行ったのかなとなってしまっていたので、わかりました。ありがとうございます。

委員長 ありがとうございます。

委員 ちょっと1つよろしいですか。自分体育もやっているんで体育館のいろんな施設がしまえるような形、収納スペースがすごくよくかいてあるんですけども、空調を考えているのかということが1つと、プールですよね。今これからはプールは維持管理の関係から学校では作っていかないんじゃないかっていう報告が出ているんですけど、それはこの検討委員会のテリトリーの外と考えるとよろしいですか。

事務局 プールに関しましては、事務局で現在検討しておりまして、個別施設計画でそ

の改修の考え方を一定程度変えていきたいと考え庁内調整を進めているところ
です。これに関しては維持管理の課題がありますので、民間のプールを活用す
る、もしくは小中で共有化していくということで施設の数を抑えていくとい
うところではあるんですけども、ただ水深の問題、移動の問題などいろいろ課
題がありますので、今、世田谷区が実施している調査等がありますので、事例
を学び、教育指導上の影響がないかというところで協議をしています。体育館
のエアコンについてはですね、教育活動上、課題視されておりますので、計画
的に順次設置しております。来年度で小学校全部工事が完了し全校設置とな
ります。

委員 当然この施設に関することも計画に位置付けられているということですよ。

事務局 ただいまモニターに体育館の整備イメージを示しておりますけれども、必要な
環境については、空調機能はじめ整備されていることを前提として、さらに今
後どうやって維持管理していくかということを学校ごとに資金計画等に反映し
ています。

委員 ありがとうございます。

委員 今のことに関連して、今年の夏も非常に気温が上がっていて学校では、暑さ対
策というものは非常に頭を悩ませております。その中で副委員長がおっしゃっ
たプール、暑すぎて入れないという問題が起きています。維持管理もそうなん
ですけども、そうすると本当に示されている教育活動が、気象的なことでで
きないということがあります。それと、今学校の施設のことをずっと言ってい
るんですけども、学校は施設だけではなくて校庭、敷地内も含めて全部学校
だと思わなければならないんですけども、この暑いさなか、敷地内のところを例えば木である
とかベンチであるとかっていろいろ工夫することで、やはり子供たち
が暑い中でも少し外の空気に触れたりとかそういうようなこともあると思わ
るんですね。施設の充実も大切だと思わなければならないんですけども、昨今の暑さとかを考えると、敷地も含めて何か考えていけるとより良いのかな、なんて事も考えまし
た。以上です。

委員長 ありがとうございます。日本の学校の体育館、夏はとても暑くなる、冬はとて
も寒くなる。もしここが避難所になると非常に過酷な環境になる。それから、
個人的な見解かもしれませんが、世界的に見て全国津々浦々どの中学校にもプ
ールがある国ってすごい珍しいんですよ。もう終了時間に近づきました。そ
れで、議題がもう一つあるんですが、時間に限りもありますので、次回の議事
に回らせていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

事務局 はい、議事が多く、進行に支障をきたしてしまい申し訳ございません。もしよろしければ、先ほどの柱だて、コンセプトの部分ですとか、まだ委員の意見が全て網羅されているわけではございませんけれども、ビジョンに見合う必要な表現を勘案していただいて、メール等でご意見をいただければ次回の集約させていただきますのでよろしくお願いいたします。

委員長 はい、ありがとうございます。ということで、大変進行が下手で申し訳ありません。時間超過しましたが今日はかなり深い議論ができたと思います。多角적으로ご議論いただいて、特にこれから中学校どうしようかっていうことについて、かなり多角적으로ご意見いただきましたので、次回までにまたワーキンググループで少し検討しましてもう一度継続審議をしていただきたいと思います。ありがとうございました。それでは他にご発言よろしいでしょうか。それでは時間超過しております。申し訳ありませんでした。今日の協議はこれで終了させていただきます。ありがとうございました。

一同 ありがとうございます。

事務局 事務局です。本日はご協力いただきありがとうございました。次回検討委員会は10月11日金曜日を予定しております。場所は本日と同じ、こちら506会議室で開催いたします。詳細につきましては改めて通知をお送りしますのでご検討ください。次回の検討につきましては推進計画素案をより深め、また施設整備方針等の計画を素案形式にて提示し、ご検討していただければというふうに準備を進めてまいります。事務局からは以上です。ありがとうございました。